

大阪医科大学 京都仁泉会会報

第 34 号



平成25年 8 月

表紙の版画

夏から秋へ

版画を創るのが好きで、特に花の版画は73枚のコレクションになりました。
9月発行の会報の表紙に何か版画を、と求められました。夏の終りから秋の初めに
咲く花を集めてみました。芙蓉、鶏頭、おしろい花、桔梗です。

田代 博（学23期）

大阪医科大学
京都仁泉会会報
第 34 号

平成 25 年 8 月

ご 挨拶

水 谷 均

猛暑日が続く毎日ではありますが、会員の皆様にはご健勝のことと存じあげます。

さて、先日行われた第23回参議院選挙は自民党の圧勝という結果となり、与党が過半数を占め衆参のねじれが解消されました。今後は国会運営がスムーズとなり、法案の成立が加速し我が国がより良くなることが希望されますが、これからの政策には与党の本音が見え隠れすると思われます。会員の皆様はどのようにお考えになられているのでしょうか。安倍首相の経済政策であるアベノミクスの3本の矢のうち1本目（金融緩和）と2本目（財政出動）の矢はすでに放たれ、1本目の矢は的に的中したと言ってもよいでしょうが、今後の我が国の経済発展にとって最も重要な3本目（成長戦略）はどうなるのか全く不明であります。



以前TPP参加を表明した時に、政府は医療に関しては皆保険制度そして社会保障は堅持すると言っていました。今後はどうなっていくかはわかりません。政府はよく『成長戦略と規制改革』と言う言葉を使います。確かに規制の枠組みを取り除けば新たな経済活動のスペースは生まれますが、長年多くの人々の努力や知恵で作ってきた社会構造まで破壊してしまうことも起こりうる可能性があることを忘れてはなりません。現在の生活や状況に不満を持つ人々にとっては心地好い響きを持つ『改革』とか『変化』に、私達は惑わされてはならないと考えています。また以前より『混合診療解禁』や『医療特区』は話題となりますが、これらの制度は我が国の医療制度の根幹を揺るがす可能性があると考えます。日本医師会は2012年3月14日の定例記者会見の『TPP交渉参加についての日本医師会の見解』の中で「日本医師会が考える『国民皆保険』の重要課題」として1. 公的な医療給付範囲を将来にわたって維持すること 2. 混合診療を全面解禁しないこと 3. 営利企業（株式会社）を医療機関経営に参入させないことをあげていますが、これらの項目は最低限堅持しなければならな

いと考えます。

幸いにも今回の参議院選挙で日本医師会副会長の羽生田俊氏が当選されたことでこのような日本医師会の考えを政治の場で堂々と述べる機会を得たことは非常に良いことだと考えます。しかし我々会員一同も今後の情勢の変化に十分目を凝らし、機会があれば自分の周囲の人々とこの問題を考え、一人でも多くの人の理解を得ていく必要があると考えます。私は先日（6月29日）行われた『各専門医会長と府医執行部との懇談会』において、『混合診療解禁』の問題点について発言させて頂き、内田理事、安達副会長、森会長より日医及び府医の見解をお聞かせ頂きました。（京都医報 8月 No. 2010 参照）

また『医療特区』に関して猪瀬都知事や安倍首相がトップクラスの外国人医師が日本で診療することが出来るような制度創設を発言していますが、現在の日本の医療レベルからして本当にそのようなことが必要なのか、トップクラスの外国人医師を招聘することが可能なのか、外国人医師の医師免許をどうするのか、医療行為でトラブルが生じたときの解決はどうするのか等を考えると問題は山積み現実的に不可能に思われますし、たとえ一部にこのような制度を取り入れるとしても十分かつ慎重な制度設計を行う必要があると思われます。

先日発売された週刊誌に『入学金タダ・授業料タダ・生活費支給—文部科学省が反日中国人留学生に使う血税 180 億円！』の記事がありました。この留学制度を利用して我が国で勉強する学生の全体の4分の3を占める中国と韓国の留学生が、帰国後さらに反日退勤を扇動しているということが事実であるならば、この予算を削減して我が国の学生の留学資金に使った方が良くと考えます。前記のような新制度を創設するよりは、若い優秀な日本の医師を外国へ留学させトップクラスの医学を学ばせて帰国させた方が効率的であり現実的であると考えます。この問題に関し会員の皆様はどのようにお考えでしょうか。以上、最近私が思っていることを簡単に述べさせて頂きました。

仁泉会会合でお会いした時には、是非皆様のご意見をお聞かせ頂ければ幸いです。

最後に、一人でも多くの会員の方の仁泉会へのご参加と、私に対し今後もご指導ご鞭撻を賜わることをお願い申し上げます。

京 都 仁 泉 会 会 則

- 第 1 条 本会は京都仁泉会と称し、事務所を会長宅におく。
- 第 2 条 本会は京都府内に在住または勤務する大阪医科大学仁泉会会員をもって組織する。
- 第 3 条 本会は医学の向上と親睦を計り、母校の発展に寄与する事を目的とする。
- 第 4 条 本会は次の事業を行う。
その事業年度は4月1日より、翌年3月31日までとする。
1. 定期総会及び其他の会合
2. 母校の発展に寄与する事業
3. 名簿の作成と配布
4. 其他目的に必要な事業
- 第 5 条 本会は次の役員をおく。
1. 会 長 1名
2. 副会長 2～3名
3. 理 事 15名以内
4. 監 事 2名
5. 顧 問 若干名
会長は本会を代表し、会務を総括する。副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその会務を代行する。監事は会務を監査する。顧問は会の運営に関し、助言する事が出来る。
- 第 6 条 会長及び監事は総会において会員の互選により選出する。
副会長及び理事は会長が委嘱する。
顧問は理事会の鑽を得て会長が委嘱する。
- 第 7 条 役員の任期は2年とし、重任を妨げない。但し、後任者が決定するまで前任者がその会務を遂行する。
- 第 8 条 本会は毎年1回、6月末迄に定期総会を開催する。
但し、会長は必要に応じ臨時総会を開催することができる。
- 第 9 条 会費 年額8,000円
但し、77歳以上の者（但し、自己申告により）、または病気等のやむを得ぬ事情があるときは理事会の承認を得てその翌年より会費を免除する。
- 第 10 条 本会の会費の徴収は次のごとく行う。
総会において認められた年額を郵便振替をもって払い込むものとする。
- 第 11 条 本会の経費は会費及び寄付金をもって賄う。
- 第 12 条 会員は住所・勤務先に変更のあるときは速やかに届けるものとする。
- 第 13 条 会則及び会費の変更は総会において出席者の過半数の賛成を要する。

付 則

本会則は平成23年6月8日に一部（〜〜部）の改定、実施する。

京 都 仁 泉 会 役 員

平成 2 5 年 度

			医療機関	自 宅	FAX
会 長	水 谷	均 (学 26)	724-0088	724-2266	724-0780
副会長	宮 地	道 弘 (学 18)	0772-22-0580	0772-22-0575	0772-20-2090
	曾我部	俊 大 (学 27)	392-8822	391-6159	392-8857
	松 本	恒 司 (学 26)	574-1100	392-0305	574-1107
庶 務	田 代	博 (学 23)	861-0124	861-2066	861-0124
	松 本	恒 司 (学 26) (兼任)			
広 報	森 本	博 子 (学 24)	491-3241	492-3382	491-7307
	蘆 田	ひろみ (学 28)	781-4770	701-2003	711-7626
	寺 村	和 久 (学 37)	311-5992	321-7880	311-5998
会 計	曾我部	俊 大 (学 27) (兼任)			
	米 林	功 二 (学 40)	873-3251		873-3251
学 術	今 村	喜久子 (学 17)	882-6666	873-2543	873-2543
	竹 内	宏 一 (学 18)	312-5431		313-3424
	米 林	功 二 (学 40) (兼任)			
厚 生	富 岡	曄 (学 22)	492-6881		492-6911
	塩 見	聡 史 (学 44)	701-0158		723-0073
監 事	加 藤	一 博 (学 12)	922-0794	933-3119	934-7889
	大 藪	博 (学 22)	331-0100	333-6347	331-0100
顧 問	檜 垣	勝 (学 11)	951-2935		955-7262
	上 原	従 正 (学 14)	922-5007		934-7022
	清 水	鴻一郎 (学 22)	611-2256	623-5833	611-2208
	内 田	實 (学 12)	882-6666	231-5280	872-2148

《平成 25 年度 京都仁泉会 総会》

平成 25 年 5 月 18 日（日） 於：京都ホテルオークラ



5 月 18 日、京都ホテルオークラにて京都仁泉会総会ならびに学術講演会が開かれました。水谷 均会長の開会の辞のあと、この 1 年間に鬼籍に入られた 3 名の先生方（松本秀雄先生（学 1 期）、小川 悟先生（学 1 期）、岡本英四郎先生（学 2 4 期））のご冥福を祈り黙祷を捧げました。第 1 号議案（事業報告）、第 2 号議案（決算等）、第 3 号議案（2013 年度事業計画案）、第 4 号議案（2013 年度予算案）は全て賛成多数で可決・承認されました。その後、内田 實先生より、大阪医科大学学長に現竹中学長が再任された事、仁泉会本部の理事は、内田 實先生、大藪 博先生、加藤一博先生、監事は森本博子先生、大学評議員は大藪 博先生、水谷 均先生に決定されたとの報告があり曾我部俊大副会長のご挨拶で総会は閉会となりました。

引き続き、松本恒司先生の司会、曾我部俊大先生が座長を務められ、大阪医科大学整形外科教室講師の馬場一郎先生より「骨粗鬆症の診断と治療」の特別講演を頂きました。

骨粗鬆症患者さんは 800 ～ 1000 万人以上。骨吸収が骨形成を上回る閉経後骨粗鬆症は 50 歳代は 1/10 人、60 歳代は 1/3 人、70 歳以上は 1/2 人にみられる。寝たきりになる患者さんの 1 割は整形外科的疾患によるため、予防・早期治療が必要である。2012 年に原発性骨粗鬆症診断基準の改定があり、骨量の測定（DXA、MD、超音波）と骨代謝マーカー（吸収マーカー：TRACP、DPD、NTx、形成マーカー：BAP、オステイカルシン）等による診断より骨粗鬆症となれば治療が大切になる。カルシウムをしっかりと摂取する、コーヒーは 2 杯 / 日までとするといった食事療法に加え、片足立ち運動、座位での足上げやスポーツ等の運動療法、加えて薬物療法が必要となる場合もある。カルシウム、活性型ビタミン D、カルシトニン、SERM、ビスホスホネート、ビタミン K、副甲状腺ホルモン剤と多岐にわたるが、SERM は血栓症や子宮癌

の注意が必要であり、ビスホスホネートは顎骨壊死や大腿骨非定型骨折の注意が必要である。特に糖尿病、ステロイド内服している場合は顎骨壊死、5年以上継続使用している場合は大腿骨非定型骨折にも注意が必要。骨粗鬆症に伴う骨折として、脊椎圧迫骨折、大腿骨近位部骨折、橈骨遠位部骨折、上腕骨近位部骨折が好発部位である。脊椎圧迫骨折には骨セメントを経皮的に注入するといった治療、トピックスとして椎体形成術後の偽関節に対して無除圧脊椎後方固定術を行っていること等、現場の臨床ですぐに役立つ講義をして頂きその後の質問・ディスカッションとも大いに盛り上がりました。

部屋を移動しての懇親会は、松本恒司先生の司会で、水谷 均会長の挨拶、整形外科の先生に関する興味あるお話のあと、宴が始まりました。この会は本当にまとまりのある会で、先輩・後輩それぞれが談笑できるとても素晴らしい会です。和やかな雰囲気の中歓談が続き、あっという間に時間が過ぎて行きました。

出席者名（27名・敬称略）：水野堯之（学1）町塚 昭（学8）内田 實（学12）勘田紘一（学15）今村喜久子（学17）奥村正治（学20）大藪 博（学22）佐野 求（学22）富岡 暉（学22）舟木 亮（学22）田代 博（学23）西本 孝（学23）森本博子（学24）浅野明美（学25）浅田修二（学25）石原 正（学25）多田秀樹（学25）野田春夫（学25）松本恒司（学26）水谷 均（学26）曾我部俊大（学27）蘆田 潔（学28）豊田昌夫（学30）宇野雅史（学31）寺村和久（学37）米林功二（学40）村上純一（学54）
講師：馬場一郎（学38）





2013 年度 京都仁泉会総会次第

(平成 25 年 5 月 18 日 (土) 於：京都ホテルオークラ)

1. 開会挨拶 京都仁泉会会長 水谷 均 先生
2. 議長選出 議長 佐野 求 先生

3. 物故者会員への黙祷

松本 秀雄 先生	学 1 期	2012 年 7 月 1 日ご逝去
小川 悟 先生	学 1 期	2012 年 9 月 1 日ご逝去
岡本英四郎 先生	学 24 期	2013 年 3 月 20 日ご逝去

4. 議事

1) 第 1 号議案 2012 年度 事業報告に関する件

(庶務担当 松本恒司)

- ①京都仁泉会総会 2012 年 5 月 27 日 (日) 京都センチュリーホテル
仁泉会本部 と 同日開催
水谷 均 会長が本部総会 議長
「栖原先生」を偲ぶ会

- ②京都仁泉会 学術講演会 11 月 17 日 (土) 京都ホテルオークラ
演題「都市型救急医療の現況と問題点」
講師：大阪府三島救命救急センター
所長 秋元 寛 先生
座長 曾我部俊大 先生 (共催：大日本住友製薬)

- ③京都仁泉会 学術講演会 2013 年 2 月 16 日 (土) 京都ホテルオークラ
演題「糖尿病の自己管理と治療の実際」
講師：大阪医科大学 内科学 I 糖尿病代謝・内分泌内科
講師 寺前純吾 先生
座長 今村喜久子 先生 (共催：大日本住友製薬)

- ④京都仁泉会 音楽の夕べ 8 月 26 日 (日) 京都ホテルオークラ
「杉山千絵 (ヴォーカル) with 寺崎 純 ピアノ・カルテット」
(担当 富岡 曄先生)

⑤京都仁泉会 ゴルフコンペ 11月11日(日) ジャパンエース

2) 第2号議案 2012年度の決算等に関する件

会計担当 曾我部俊大 先生

会計監査 内田 實 先生 大藪 博 先生

3) 第3号議案 2013年度事業計画(案)承認に関する件

(1) 事業計画(案)

①京都仁泉会 総会 5月18日(土) 京都ホテルオークラ
学術講演会

演題「骨粗鬆症の診断と治療」

講師：大阪医科大学 生体管理再建医学講座 整形外科学講座

講師 馬場一郎 先生

座長 曾我部俊大 先生 (共催：小野薬品)

②京都仁泉会 学術講演会 11月16日(土) 京都ホテルオークラ
演題 未定

講師 大阪医科大学 救急医療学教室

教授 高須 朗 先生 (共催：大日本住友製薬)

③京都仁泉会 学術講演会 2014年2月8日(土) 京都ホテルオークラ
演題 未定 (共催：大日本住友製薬)

④京都仁泉会 音楽の夕べ 8月25日(日) 京都ホテルオークラ
(担当 富岡 曄先生)

⑤ゴルフコンペ 11月10日(日) ジャパンエース
(担当 塩見 聡先生) 5組 予約済み

4) 第4号議案 2013年度 予算(案) 承認に関する件

会計担当 曾我部俊大先生

5. その他

6. 閉会挨拶 曾我部俊大 副会長

平成 24 年度 京都仁泉会 収支決算報告書

(平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日)

〈 収 入 の 部 〉	〈予算案〉 (円)	〈決 算〉 (円)
前年度繰越金	3,449,577	3,449,577
年会費 平成 23 年度分 $\yen 8,000 \times 1$ 名		
平成 24 年度分 $\yen 8,000 \times 115$ 名	960,000	928,000
総会当日会費 (H 24 年 5 月 27 日) ($\yen 2,000 \times 30$ 名)	60,000	0
仁泉会音楽の夕べ当日会費 (H 24 年 8 月 26 日) ($\yen 8,000 \times 30$ 名)	240,000	240,000
学術講演会当日会費 (H 24 年 11 月 17 日) ($\yen 2,000 \times 20$ 名)	40,000	40,000
(H 25 年 2 月 16 日) ($\yen 2,000 \times 27$ 名)	40,000	54,000
預金利息	1,000	490
合 計	4,790,577	4,712,067

〈 支 出 の 部 〉	〈予算案〉 (円)	〈決 算〉 (円)
総会当日経費 (H 24 年 5 月 27 日)	200,000	16,170
音楽の夕べ当日経費 (H 24 年 8 月 26 日)	650,000	645,258
学術講演会当日経費 (H 24 年 11 月 7 日)	40,000	40,000
〃 (H 25 年 2 月 16 日)	40,000	54,000
通信・印刷費	300,000	253,557
厚生費	80,000	64,000
慶弔費	40,000	0
事務用品	10,000	0
その他	100,000	7,350
予備費 (次年度繰り越し金)	3,330,577	3,631,732
合 計	4,790,577	4,712,067

京都仁泉会 会長 水谷 均

会計 曾我部俊大

米林 功二

監査の結果、適正なるものと認めます。

平成 25 年 4 月 16 日

監査

加藤 一博

大数 博

平成 25 年度 京都仁泉会 予算（案）

（平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）

〈 収 入 の 部 〉	〈 予 算 案 〉 (円)
年会費（平成 25 年度分 ¥8,000 × 120 名）	960,000
総会当日会費（¥2,000 × 30 名）	60,000
仁泉会音楽の夕べ当日会費（¥8,000 × 30 名）	240,000
学術講演会当日会費（H 25 年 11 月）（¥2,000 × 22 名）	44,000
〃 （H 26 年 2 月）（¥2,000 × 22 名）	44,000
預金利息	1,000
前年度繰越金	3,631,732
合 計	4,980,732

〈 支 出 の 部 〉	〈 予 算 案 〉 (円)
総会当日経費	200,000
音楽の夕べ当日経費	650,000
学術講演会当日経費（H 25 年 11 月）	44,000
〃 （H 26 年 2 月）	44,000
通信・印刷費	400,000
厚生費（ゴルフ経費代含む）	40,000
慶弔費	40,000
事務用品	10,000
その他	100,000
予備費	3,452,732
合 計	4,980,732

《京都仁泉会秋の学術講演会》

平成 24 年 11 月 17 日 於：京都ホテルオークラ



11 月 17 日、京都ホテルオークラにて京都仁泉会秋の学術講演会が開かれました。水谷 均会長の開会の辞のあと、松本恒司先生の司会で始まりました。今回は曾我部先生に座長をお願いし、大阪府三島救命救急センター所長 秋元寛先生より、「都市型救急医療の現状と問題」の御講演を賜りました。

日本の救急医療体制の基本的な知識の整理、三島地域の現状と問題点、そして新しい医療体系の構築といった、非常に難題の多い領域をわかりやすく説明していただきました。初期救急医療、2 次救急医療 (3259 施設)、3 次救急医療 (255 施設、ドクターヘリ 39 施設) と体制は分かれているが、実際には 3 次救急以外の受け入れ方は明瞭に区別できるものではない。救急医療施設の分類は、①集中治療型②救急初期治療型 (i:ER 型、ii:各科相乗り型) となるが、ER 型、各科相乗り型は初期・2 次の両者の救急医療を担当することとなる。現場でどの施設に搬送するかは、場合により救急隊員の重症度評価に依存することも多く 2 次救急の受け入れが増加する結果にも繋がっている。大都市では軽症の 54.6%が救急搬送され (大阪 62%、京都 61%)、また、5 万人未満の都市ではその 48%が管外へ搬送される (大都市は管外搬送は 6%) こともあり、軽症の症例が大都市の救急医療機関に集中する結果となる。こういった状況であるにも関わらず、2 次救急施設数はほとんど増えていない。また、2 次救急施設の質にもばらつきがあり、40%は救急担当専任医の配置はなく、また、2/3 は非常勤医が担当しているような状態。三島地区でも軽症患者の 2 次救急施設への搬送が増えている (66%)。この状況は 2 次救急施設へさらなる負荷をかけている。



以上より新しい医療体制の整備が急務で、大阪府では「まもって Net」といった救急施設への搬送をコーディネー

トする体制を構築しようとしている。三島地区においては、現在の救急医療体制は十分機能しているが、他地域からの搬送の増加も考えられるため、2次医療圏における救急医療体制の確保のため、小児救急医療センター、広域急病センターといった新たな受け入れ体制、ひいては三島総合救急医療センターの立ち上げ等が必要かと思われる。といった、まさに現在の救急医療の問題点、秋元先生の救急医療への情熱を感じさせて頂く講演を拝聴させていただきました。



部屋を移動しての懇親会は、松本恒司先生の司会で、水谷 均会長の挨拶、繁本清美先生が乾杯の発声をされ宴が始まりました。松本先生のいつもながらの絶妙な司会、和やかな雰囲気の中歓談が続き、また今回は蘆田ひろみ先生によるプチ バレエ教室もあり、本当に楽しく時間が過ぎて行きました。



出席者名 (21名・敬称略)：繁本清美 (学7) 加藤一博 (学12) 上原従正 (学14) 勘田紘一 (学15) 今村喜久子 (学17) 大藪博 (学22) 清水鴻一郎 (学22) 富岡暉 (学22) 森本英夫 (学22) 田代博 (学23) 森本博子 (学24) 多田秀樹 (学25) 松本恒司 (学26) 水谷均 (学26) 河合尚樹 (学27) 曾我部俊大 (学27) 萩原暢子 (学28) 蘆田ひろみ (学28) 寺村和久 (学37) 米林功二 (学40) 講師：秋元寛 (学32)



《京都仁泉会春の学術講演会》

平成 25 年 2 月 16 日 於：京都ホテルオークラ



2 月 16 日、京都ホテルオークラにて京都仁泉会春の学術講演会が開かれました。曾我部先生の開会の辞のあと、松本恒司先生の司会で始まりました。今村先生に座長をお願いし大阪医科大学内科学 1 糖尿病代謝・内分泌内科 講師 寺前純吾先生より、「糖尿病の自己管理と治療の実際～高齢者の管理を意識して～」の御講演を賜りました。

一般的に糖尿病有病率は 11.2%。70 歳以上では糖尿病の可能性のある人を含めて 37%。高齢になるほど有病率は上がるとともに、糖尿病の患者は認知症の発症率も 1.8 倍と高くなる。そもそも糖尿病の治療目的は合併症の予防である。高齢者糖尿病の特徴として、①個別性・多様性がある②高血糖に伴う症状が少ない③食後高血糖を示す事が多い④動脈硬化性血管障害の合併率が高い、といったことがあり、治療効果の判断や合併症のコントロールが難しいといった側面がある。

高齢者糖尿病の前向き研究によれば、HbA1c が高すぎても低すぎても脳血管障害は生じやすく、Non-HDL コレステロールが糖尿病関連死、脳血管障害と有意に関連する、脂質異常症と血圧高値が認知機能低下と関連する傾向があることがわかっている。従って糖尿病の観点からは、高齢者糖尿病のコントロール目標を、HbA1c:7.4% (NGSP)、FBS: <140 とするのが良い。

糖尿病の治療のベースとなる食事療法の基本として、野菜を先に食べるにより血糖値の上昇が抑えられる。カロリーが無いと勘違いされておられる患者さんもいるが、焼酎、ウイスキーは蒸留酒で確かに糖質はゼロだが、アルコール 1g で 7kcal とカロリーを有していること。また、運動療法は 1 日 15 - 30 分程で良い。最近の薬物療法はメトフォルミンと DPP4 といった薬剤が中心となる。高齢者は典型的な低血糖症状を訴えないことも多く、薬物による低血糖をおこさないことが非常に大切である、



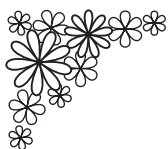
といった内容の講演を賜りました。

学術講演会の後の情報交換会は、いつものように松本恒司先生の巧みな司会で進められました。舞台の壇上で喋られる先生方、グラスを手に談笑されておられる先生方、その柔らかな表情を森本博子先生がカメラに収めて下さいました。次期医学会総会の告知や恒例になりつつある蘆田ひろみ先生のプチパレイ教室があったり、本当に楽しく時間が過ぎて行きました。次回も益々盛り上がる京都仁泉会であるよう皆様のご協力、何卒宜しくお願いします。

出席者名 (28名・敬称略): 神部 彰 (学7) 町塚 昭 (学8) 内田 實 (学12) 太田 稔 (学12) 勘田紘一 (学15) 今村喜久子 (学17) 竹内宏一 (学18) 大藪 博 (学22) 清水鴻一郎 (学22) 富岡 曄 (学22) 船木 亮 (学22) 田代 博 (学23) 西本 孝 (学23) 森本博子 (学24) 浅田修二 (学25) 多田秀樹 (学25) 野田春夫 (学25) 松本恒司 (学26) 河合尚樹 (学27) 曾我部俊大 (学27) 蘆田ひろみ (学28) 萩原暢子 (学28) 宇野雅史 (学31) 上田ゆかり (学37) 寺村和久 (学37) 米林功二 (学40) 塩見 聡史 (学44) 中辻文彦 (学52)







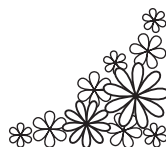
京都仁泉会 「音楽の夕べ」

平成 24 年 8 月 26 日 於：京都ホテルオークラ

8 月 26 日、第 21 回京都仁泉会 音楽の夕べが京都ホテルオークラ 曲水の間で開かれました。今年は杉山千絵さんをヴォーカルに、寺崎純さんのピアノ・カルテットの伴奏でジャズを楽しみました。京阪神を中心にライブハウス等で演奏活動しているメンバーです。“Cheek To Cheek” から始まり、“イパネバの娘” “Day by Day”、映画カサブランカから “As Time Goes By” 他、ジャズのスタンダードを中心にたっぷり一時間楽しみました。間奏で杉山千絵さん自身の口笛の音色は心地よく耳に響きました。また、ピアノ、ベース、テナーサックス、ドラム、それぞれの楽器の聴かせどころがあって、演奏も聴き応えがありました。

ジャズを楽しんだあとは宴会となりました。水谷会長の挨拶に続いて中津川先生の乾杯の発声で開宴となりました。今年のご家族を含め、30 名の参加者がありました。毎年この会を楽しみにされている方が多く、年一回の再会を喜び会話がはずんでいました。今回初めて参加された細井順先生からご自身が世話役となって尽力されている 11 月 3 日に開かれる「～いのちの継承と再生～第 36 回日本死の臨床研究会年次報告」についてご案内があり皆様のご協力を呼びかけられました。最後に曾我部副会長より今後の予定、秋の講演会、ゴルフコンペのご案内があり、お開きとなりました。担当理事の富岡先生には心より御礼申し上げます。

参加者：中津川直人ご夫妻（高 20）、内田実ご夫妻・太田稔（学 12）、上原従正ご夫妻・大澤直・島田真久（学 14）、今村喜久子・岡田勝彦（学 17）、岡田豊子（学 21）、大藪博ご夫妻・富岡曄とご友人、丸尾馨ご夫妻・森本英夫（学 22）、森本博子（学 24）、水谷均ご夫妻・松本恒司ご夫妻（学 26）、曾我部俊大・細井順（学 27）、萩原暢子ご家族（学 28）、北川靖（学 33）、大場創介（学 37）







《平成 24 年度京都仁泉会ゴルフコンペの報告》

平成 24 年 11 月 11 日 於：ジャパンエースゴルフクラブ

平成24年11月11日（日）、ジャパンエースにて恒例の京都仁泉会ゴルフコンペを行いました。今回は消化器外科の前教授の谷川先生も初参加して頂き、久し振りに4組、16名のフルメンバーのラウンドとなりました。あいにく天気は雨でしたが、さすがに名門のゴルフコースでグリーンの水はけは抜群で、雨足の強くなった昼からのラウンドでも30代を出された先生もおられました。

ゴルフはダブルペリア方式で行い、蘆田潔先生が優勝、準優勝はベストグロスの佐野求先生、3位は最近メキメキと腕を上げて来られた野田春夫先生でした。なお、ドラコンは多田万砂子、ドラ短賞は萩原暢子先生がゲットされ女性陣の活躍が目立ちました。アフターゴルフのパーティーは、各自のティーショットのビデオを見ながら盛り上がり、来年も京都仁泉会ゴルフでの再会を誓ってお開きになりました。

私ごとですが、平成17年より京都仁泉会ゴルフを担当して参りましたが次回より平成7年卒の塩見聡史先生にバトンタッチいたします。これを機会に若い世代の先生方のご参加を熱望しております。

京都仁泉会 厚生担当 多田秀樹



平成 24 年度京都仁泉会ゴルフコンペ

優勝記

蘆田 潔

平成24年11月11日に恒例の標題のコンペが栗東市にあります名門ジャパンエースゴルフコースにて開催されました。今回で8回目を迎え、参加者数は過去最高の4組、16名で、賑やかなコンペになりました。かつては2組がやっとの時もありましたのでゴルフ愛好家としては留飲が下がる思いです。ゴルフ人口が減っている現状の中であって京都仁泉会ゴルフ熱はこれからが楽しみな盛り上がりを見せているように思われます。このコンペは「京都」という冠がついてはいますが、母校卒業生であれば住居の如何によらず参加することができる親睦コンペですので本稿をお読みにになった先生は友人をお誘いの上、奮ってご参加下さい。このコンペはダブルペリアという方法でハンデキャップ（HD）が算出されます。その方法は、予め隠しホールが設定されており、それらのホールでの打数の総数に0.8を乗じたものがHDになります。もちろん、隠しホールは参加者には事前には分かりません。したがって、競技が終了しても誰が優勝者かは不明です。入浴後の会食での団らん中で結果が初めて発表されます。今年は生憎の寒雨の中での戦いになり、お風呂で冷えた身体を癒して会食を迎えました。そして、成績発表となり、HDが15.6も頂いた私が優勝者ということになりました。前半（out）47後半（in）39 計（gross）86 で、 $86 - 15.6 = 70.4$ （net）でした。2位にはout41,in42 gross 83 HD12.0 net71.0の佐野 求先生でした。3位はout50,in56 gross 106 HD30.0 net75.0の野田春夫先生でした。私は前半のoutでは飛距離を求めて力んだためティーショットが安定せず、また雨にも拘わらず良くて手入れされた速いベントグリーンに悩まされてスコアになりませんでした。後半のinでは雨量が増し、飛ばすことを諦めたところショットが安定し、またグリーンにも慣れて1バーディー、4ボギーの39の久しぶりの30台の好スコアでした。欲は禁物、無欲が大

事であると・・・、改めてゴルフの難しさを痛感しました。ただ、スコアとは関係なく和気藹々と和やかな雰囲気です。ラウンドさせて頂きました。ご一緒して頂いた第二内科の同門の多田秀樹（学25期）先生、塩見聡史（学44期）先生、そして梶野夫人には紙面を借りて改めて感謝致します。今年度、私は所属する鳴尾ゴルフ倶楽部のシニア選手権（予選会後のマッチプレー）で優勝しました。10月の1か月間は近くの北白川ゴルフで夜間に練習を重ねて、試合に臨みましたが、充実の1か月間でした。しかし、11月のこのゴルフコンペは、優勝したものの内容はイマイチで、ゴルフの調子を1か月以上維持することの難しさを痛感しました。ベストグロスの佐野先生は安定感があり、毎年のベストグロスです。来年はベストグロスを目指してトレーニングを重ね臨みたいと思っています。ちなみに、ドラコンは7番ホール蘆田、12番ホール多田万砂子先生、ドラタン7番ホール石原先生、12番ホール萩原先生、ニアピン5番ホール佐野先生、8番ホール曾我部先生、13番ホール蘆田、16番ホール塩見先生でした。来年は11月10日に開催されることが決定しています。冒頭でも述べましたように京都にお住いでない先生でも気楽に参加できますのでご友人をお誘いの上、奮ってご参加ください。

最後になりましたが、このコンペ開催に幹事として8回もお世話頂いた多田秀樹先生には改めて感謝申し上げます。今回の天候は、多田先生の最後の企画を惜しむ雨だったと思います。また、これまで快晴の下で開催された7回のコンペとは異なり、途中で中止を提案した組もあった雨中のコンペは一生、記憶に残ると思います。今回参加された先生方と来年もジャパンエースゴルフクラブでお会いすることを楽しみにしています。なお、来年度より塩見先生が引き続いて幹事をしてくれます。学44期あたりの若手の先生方の参加を期待しています。次回は6組ぐらいのコンペにしたいです。

編 集 後 記

今年の夏は記録的な猛暑でした。各地で観測史上初めての暑さが観測されました。その暑さで頭が回らなかったということは言い訳にはなりませんが、編集作業が遅れ、この会報がお手元に届くのは秋風がふく頃になるかと思います。今回初めて今までの表紙からカラーにして田代先生に版画をお願いしました。また、巻末に返信葉書に書かれた会員の皆様の声を載せておりましたがそれも思い切ってカットいたしました。会員の皆様からの原稿を載せたいとは思っておりますが、現実的にはなかなか集めることが難しいです。会報についてご意見、ご提案がございましたらお聞かせくださいませ。

広報担当理事：森本 博子（学24）

蘆田ひろみ（学28）

寺村 和久（学37）